

## 県営広域避難所開設訓練

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
職員の動員手順の確認	動員計画に規定する手順どおりに実施できることが確認できた。	訓練では計画に沿った手順を円滑に実施できたため、改善事項は認められなかった。実際の有事の際は多人数を同時並行で動員する必要があるため、輻輳や遅延が懸念されるため、中部地震、大雪、豪雨災害等での職員派遣の経験等を通じて、円滑な職員動員のスキルを向上させていく。	
動員者による県営広域避難所(居住スペース)の設営	実際の対応時に想定される動員職員のみで設営作業を実施し、マニュアルの改善点や必要な資機材の数量等について確認することができた。	訓練参加者や段ボール製造業者等の意見を参考にし、作業マニュアルの改良に取り組む。また、今後も訓練未実施の施設において順次訓練を実施し、課題の検証を通じて実効性の向上を図っていく。	
住民避難訓練参加者による県営広域避難所の視察	住民との意見交換等を通じて県営広域避難所に対する住民の理解を深めるとともに、避難所運営における課題や改善点等について意見を伺うことができた。	長期にわたる避難所生活においても、避難住民が出来るだけ不便のない安全・安心な生活がおくれるよう、住民避難訓練参加者からの意見を参考にし、運営マニュアルの改良に取り組む。	

## 県営広域避難所開設訓練の概要

**【日時】** 平成30年10月30日(火) 9:00~13:45

**【場所】** 鳥取県立鳥取産業体育館 小体育館

- 【概要】**
- ・ 職員の動員手順の確認
  - ・ 動員者による県営広域避難所(居住スペース)の設営
  - ・ 住民避難訓練参加者による県営広域避難所の視察

**【訓練の様子】**

<p>段ボールの敷設 (44区画)</p> 	<p>間仕切り用段ボールの設置 (12区画分)</p> 	<p>段ボールベッドの組立て (3台分)</p> 
<p>段ボールチェア・トイレの組立て (10脚・1台)</p> 	<p>住民視察</p> 	

## 原子力防災講座等

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
訓練参加住民に放射線基礎や原子力防災についての知識・理解を深めていただくとともに、ワークショップを通じて主体的に訓練へ参加いただく機運を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの結果、参加住民の約8割が講座を通じて原子力防災に関する理解が深まった・やや深まったと回答され、一定の効果が見られた</li> <li>・講座に参加されなかった方への説明方法等について検討する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の内容・時間配分等について、より理解が深まるものとなるよう引き続き検討を行う</li> <li>・講座に参加されなかった方に、原子力防災の理解を深めていただくため、講座の資料を事前配布する等、米子市・境港市と対応を検討する</li> </ul>	
訓練展示を通じた訓練参加住民への災害全般への知識・理解を深めていただく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各機関に協力いただき、災害時の通信の確保や救助活動に関するパネル展示、衛星携帯電話や防護衣など資機材の実物を展示することで、多くの訓練参加住民に理解を深めていただいた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き来年度訓練時も展示を行い、訓練参加住民に知識・理解を深めていただく</li> </ul>	

## 原子力防災講座等の概要

**【目的】**

原子力防災訓練の参加住民に、原子力防災や放射線等についての知識・理解を深めていただき、より効果的な原子力防災訓練とする。

**【日時・場所】**

日	時間	場所	参加者数
10月20日(土)	10:00～11:30	米子市住吉公民館	35名
	14:00～15:30	境港市保健相談センター講堂	40名

**【内容】**

(1) 原子力防災講座

○演題 放射線の人体への影響と原子力災害時の防護措置

○講師 鳥取大学 研究推進機構 研究基盤センター 助教 北 実(きた まこと) 氏

(2) ワークショップ

避難を行う際の注意事項 等



## 訓練展示実施状況

### 【実施内容】

訓練参加者に対する各機関の災害対応活動に関する普及啓発

### 【日時・場所】

10月30日（火） 10:00～13:00

中山農業者トレーニングセンター（大山町）

### 【参加機関（敬称略・順不同）】

- ・ NTT西日本鳥取支店、島根支店    ・ 株式会社docomoCS中国鳥取支店    ・ KDDI株式会社
- ・ 株式会社グロウス    ・ 自衛隊鳥取地方協力本部    ・ 陸上自衛隊第8普通科連隊



## 平成30年度鳥取県西部町村合同避難所運営訓練

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
避難者受入れの際の 手順及び避難者の 氏名等を確認する ための様式の配布・ 回収方法の確認	受付に避難者が集中 すると、避難スペース への誘導に時間がか かり、また避難者 用記入様式の回収に 時間を要する。	避難者をスムーズに 誘導できるよう、基 本となる役割分担等 の精査及び訓練を通 じた職員の習熟を図 る。 →避難所開設マニュアル を修正	
避難者と協力した 避難所の避難ス ペース整備(間仕切 り、ダンボールベッ ド、マットの設置)	・住民に協力を依頼し、 避難所開設に係る人 員の削減に繋がった。 ・人員の配分が分担 する業務量と比較し 適切でなかった箇所 があり、スムーズな 避難所開設が行えな かった。	・住民との避難所開 設、運営に係る協力 体制の構築、業務分 担は今後も訓練で習 熟を図りたい。 ・訓練結果をもとに 業務の種別及び作業 量に応じた人員配分 ができるよう、あら かじめ検討する。 →避難所マニュアルを 修正	
避難者の健康状態 を保健師が聞き取 り、避難所で対策 が必要な場合には、 対策の検討を行う。	どこまで詳細に聞き 取ることが定まらな く、聞き取りのペ ース配分ができな かった。また、聞き 取った内容の伝達、 共有の流れが不明 確だった。	・聞き取りのための 様式の精査により、 聞き取り、情報共有 が行いやすいよう 改善を図る。 →様式の修正	

## 平成30年度鳥取県西部町村合同避難所運営訓練の概要

### 訓練概要及び流れ (9:00~10:20)

- 1 日野町において避難所開設を決定(開始)
- ↓
- 2 西部町村に応援派遣を依頼
- ↓
- 3 西部町村職員が日野町内避難所(山村開発センター)に集合
- ↓
- 4 避難所開設準備・受入れ開始
- ↓
- 5 避難者受付、避難所内へ誘導、避難スペース設置
- ↓
- 6 健康状態聞き取り、炊出しの提供
- ↓
- 7 終了(講演へ移行)



# 平成30年度原子力防災訓練 (島根原子力発電所対応)

## 振り返り資料

### 米子市

#### 初動対応訓練の概要(10月26日(金))

##### 【情報伝達訓練】

- 情報の収集及び関係課への伝達
- 事態進展情報等に基づく事務処理
- 中国電力の情報連絡員による想定事象に関する説明

##### 【学校避難訓練】

- 住吉小学校における児童引渡し訓練



# 初動対応訓練(10月26日(金))

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性
情報伝達訓練	事態の進展状況等について、各関係機関から入手するとともに、市役所内各部署に対し情報を提供し、それぞれにおいて対応の検討や事務処理を行った。また、中国電力から想定事象に関する説明を受け、原子力災害に対する理解を深めることができた。	情報伝達は、主にFAXを使用し行ったが、送信先の使用状況によっては、伝達に時間を要する場合があります。代替手段や伝達要領などについて検討が必要である。
学校避難訓練	住吉小学校において、放射性物質による汚染防止の観点から車両を使用した児童引渡し訓練を実施した。 学校のグラウンドを使用し、警察署との連携のもと、児童25人を円滑に保護者に引渡すことができた。	住吉小学校周辺の道路の幅員は狭隘であり離合が困難な場所があるため、車両の円滑な運行に支障をきたす場面があった。 600人以上の児童が在籍する同校において、安全かつ円滑な引渡しを行うためには、ハード、ソフト両面での検討が必要である。

# 住民等避難訓練の概要(10月30日(火))

**広報訓練**

防災行政無線

緊急速報メール

消防団による広報

**緊急避難訓練**

陸上自衛隊  
米子駐屯地

緊急避難

- ・訓練対象地区: 住吉地区
- ・参加人数: 85人  
(住民75、聴覚障がい者4、消防団6)

**JR避難訓練**

**バス避難訓練**

**一時集結所運営訓練**

41

米子駅

至 避難退避時検査会場  
(中山農業者トレーニングセンター)

# 住民等避難訓練(10月30日(火))

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性
広報訓練	<p>防災無線、緊急速報メール、巡回広報など多様な手段により、避難指示を周知した。特に、消防車による多言語(英語、中国語、韓国語)広報を実施し、外国人に対し避難や原子力防災への理解促進を図った。</p>	<p>障がい者などへの避難情報等の提供や本市HPなどによる市全域に対する情報提供の必要性について確認した。</p>
一時集結所の運営訓練	<p>開設から安定ヨウ素剤の説明、服用訓練などの一連の活動について確認した。 特に、聴覚障がい者への対応として、手話通訳や要約筆記者等を配置するとともに、ホワイトボード、書きポンなどを活用し、その有効性について確認した。</p>	<p>聴覚障がい者以外の障がい者や外国人などへの対応について支援の充実を図る必要があることについて確認した。 バス等大型車両の適切な待機場所の確保と狭隘な待機場所や道路事情等を考慮した適切な車両の選定など柔軟な運用の必要性について確認した。</p>
避難訓練 (バス避難訓練、JR避難訓練、緊急避難訓練)	<p>多様な避難手段(バス、JR、ヘリコプター)による避難訓練を実施し、その有効性を確認した。また、パトカーによる先導やそれぞれの車両等にエスコートの職員を配置し、円滑な避難を実施した。 MCA無線を活用したバスなどの避難状況の掌握や交通統制の有効性について確認するとともに、一元的な交通統制などの必要性について確認した。</p>	<p>各種手段による避難訓練を継続し、広域避難計画の実行性の向上を図る。 本市では、独自にバスの交通統制を行い、その有効性について確認したが、有事には本市だけでもさらに多くのバスを運行し、また他県や他市などのバスも運行されるため、全体を統制する必要がある、県による一元的な交通統制の検討について要望したい。</p>

# 平成30年度原子力防災訓練 (島根原子力発電所対応)

## 振り返り資料

### 境港市

1

#### 訓練実施における市の想定等

島根県東部を震源とする地震により、境港市で震度6弱を観測したという前提で、以下の状況を想定して住民避難訓練等を実施した。

##### 1 避難バス運行経路の制限

地震により国道431号線の境水道大橋から米子空港入口間が使用できない状況を設定し、避難用のバスを迂回運行した。

また、安定ヨウ素剤（水剤）配送訓練において、家屋倒壊等により一部車両通行不可の状況を設定し徒歩による配送を行った。

##### 2 臨時の安定ヨウ素剤配布場所の開設

地震により一部の一時集結所が使用できない状況を想定し、保健相談センター講堂に臨時の安定ヨウ素剤配布場所を開設して、安定ヨウ素剤の服用説明等を行った。

##### 3 時間差を設けた住民避難

地震の影響等により、バスの手配の遅れや住民の参集に時間差がある場合を想定し、訓練開始時刻に1時間程度の時間差を設定し、2段階で避難する訓練を行った。